

# 図書室だより



2023年7月 第四中学校図書室

図書室に、夏の「青少年読書感想文全国コンクール」の課題図書が入りました。雨の日がまだまだ続くこの時期、ゆっくりと本を読んでみませんか。



## 『スクラッチ』

歌代 朔 / あかね書房

コロナ禍の中学校生活。出展するはずの展示会の審査がなくなり、それでも出展作を描き続ける主人公。そのキャンバスに友人が不注意で墨を飛ばしてしまい…。何もかもが制限されたコロナ禍の中学生が、自分らしい生き方を見つける物語です。



## 『アップステージ』シャイなわたしが舞台に立つまで

ダイアナ・ハーモン・アシャー / 評論社

シャイで目立つことが嫌いなシーラ。でも心の中では学校のミュージカルに出演したいと思っています。恋あり、悩みあり、失敗あり…。アメリカの中学校生活をのぞいてみましょう。

江戸をつくったのは  
家康ではなく荒川!?



## 『人がつくった川・荒川』

水害からいのちを守り、暮らしを豊かにする

長谷川 敦 / 旬報社

この本は「荒れる川」だった荒川を、昔の人がどのようにして、「生活を豊かにするための川」につくり変えていったのかが、面白く学べます。

おすすめの本



## 『めんどくさがりなきみのための文章教室』

はやみね かおる / 飛鳥新社

「作文で何を書いていいかわからない」と思っている人におすすめ！すぐに役立つ文章の書き方が学べます。



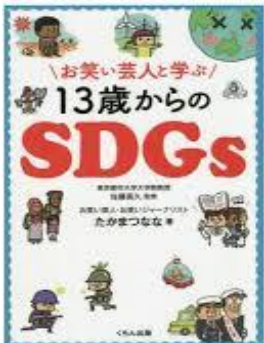
図書室にある「おすすめ本」を図書委員会の学年リーダーが紹介します。  
夏の「特別貸出」で借りた本は、9月第2週まで借りることができます。  
この夏、よかったら読んでみませんか？



3年全校委員長 落合 夏鈴 『お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs』

333

タ



私が紹介する本は『お笑い芸人と学ぶ13歳からのSDGs』です。今、重要視されているSDGsについて、私は以前「難しい」「私に関係あるの?」と感じ、あまり深く考えられませんでした。ですがこの本を読んでもと著者のたかまつななさんの実体験が載っていたり、具体例や実際の数値が提示されていたりと、とても分かりやすく、「自分だったら〜」と考えることができました。特に第4章に記されている「100の身近なアクション」では、今日から簡単に始められるSDGsのための行動が分かり、「自分にもできそう」と取り組みたいという意欲が高まりました。

このようなところから「知る」だけでなく「考える」そして「行動する」ということで、よりよい社会の実現につながると思います。「SDGsって結局なんだろう?」「何をしたらいいの?」と思っている人はぜひ手に取ってみてください。3年生は受験勉強の合間に、少し日本の将来について考えるのはいかがでしょう...。

2年学年委員長 西村 明寧 『きよしこ』

913

シ

私がお勧めする本は、『きよしこ』です。この本はTVドラマ化されたので知っている人も多いと思いますが、実際に吃音に悩まされてきた作者、重松清さんの少年期をモデルとした「きよし」が主人公となっている物語です。

思っていることを上手に話すことができず、独りぼっちだった少年が、父の仕事の都合で転校を経験し、様々な人との出会いや別れを繰り返していく中、小学校1年生から高校3年生までの12年間で「伝えること」を諦めない大人へ成長していく姿が描かれている、甚割と心が温まるような作品となっています。

他にも重松清さんが描く小説は図書室にはたくさんあるので、夏休みの読書でぜひ手に取ってみてはいかがでしょうか。



1年学年委員長 高橋 葵 『ますますざんねんないきもの事典』

480

イ



僕がお勧めする本は、今泉忠明さんの『ますますざんねんないきもの事典』です。『ざんねんないきもの事典』シリーズの第6弾です。

生き物が好きな人もそうでない人も、生き物に関心を持つことができたり、思わず「クスッ」と笑えたりできる『残念な進化』をした生き物が、「こだわりがざんねん」「体がざんねん」「生き方がざんねん」「能力がざんねん」「どっちもざんねん」と部門別にまとめられています。一例として「〇〇はかわいがられすぎると寿命が短くなる」と本の中で紹介されていますが、皆さんは〇〇は何だと思えますか? (答えは84ページ)

面白いこと間違いなしです。ぜひ探して、読んでみてください。

夏休み「特別貸出」は 7/10(月) からです。1人4冊まで借りられます。  
借りる際「特別貸出で!」と伝えてください。返却は 9/4(月)~8(金) です。